

(別紙)

平成24年度学内版 GP 成果報告書

取組名	グローバルなコミュニケーション力をもつ理系人材を育成する教育課程の構築
実施組織	総合工学系研究科、理学部、工学部、農学部、繊維学部
実施責任者	平林公男
取組の目標	職業現場で使える実践的な英語発信力を持つ理系人材の育成
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>(1) 4学部で英語教育に関する「英語コミュニケーション推進ワーキング」を立ち上げ、情報交換と各学部内における広報と、TOEIC-IP 実施に向けた準備を行った。</p> <p>(2) TOEIC-IP テストの実施(4 学部)</p> <p>1, 2 年次の学生全員を対象に理学部、工学部、農学部、繊維学部キャンパスで 6 月と 12 月に TOEIC-IP テストを実施した。理学部、工学部、農学部は受験料の補助を行った。特に 12 月は同一日に4キャンパスで実施した。繊維学部(1,2 年生全員 610 名)、工学部 50 名、農学部 68 名、理学部 46 名、他学部 58 名の合計 832 名の受験があった。各学部で高得点者を把握でき(例:工 2 年 845、理 2 年 970、理 3 年 840 など)、留学推薦対象者や、TOEIC-SW、TOEFL 受験推薦対象者を拾い出すことができた。</p> <p>(3) TOEIC-SW テストの実施</p> <p>TOEIC-IP スコアが 550 点以上の学生、院生を対象に受験者を募り、14 名が受験した。受験者には受験料 5000 円(受験料 8800 円)の補助を行った(繊維学部)</p> <p>注:経費は三ツ星計画経費</p> <p>(4) 「実践的英語ライティング・スピーキング演習:2 単位」を導入した。(繊維学部)</p> <p>(5) TOEIC-Bridge の実施(繊維学部)</p> <p>クラス分と TOEIC テストへの導入を目的に、新入生全員を対象に 入学時に TOEIC-Bridge テストを実施した。</p> <p>(6) オンライン英語学習システム「アルク NetAcademy」を 2 年次の全英語クラスに組み込み、毎週宿題を出し、次週小テストにより学習を確認し、TA が採点し、翌週に答案を返すサイクルにより、教室外学習を強化した。</p> <p>(繊維学部)</p> <p>(7) 厳格な成績評価及び単位の実質化</p> <p>2 年次の成績評価は TOEIC スコア 30%、NetAcademy 小テスト 20%、期末テスト等 50%とし、国際基準による達成度評価、教室外学習の強化を実現した。(繊維学部)</p> <p>(8) 平成 18 年度から 24 年度までの TOEIC-IP テストのデータ分析を行った。(繊維学部)</p>
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	理系 4 学部は連携して TOEIC を達成度測定につかう新英語カリキュラムの構築に着手した。取り組み初年度の理、工、農の 3 学部は希望学生を対象に TOEIC-IP テストを実施し(受験料を補助)、25 年度以降に向けテスト実施上の課題等を把握した。繊維学部は、これまでに構築したプログラムをベースに TOEIC-SW による英

語発信能力をもつ技術者育成の教育インフラの整備を推進し、「実践的英語ライティング・スピーキング演習」を自由科目から選択科目に格上げし、SWテストを実施した。3学部は今年度の取り組みを踏まえ、来年度以降更なるプログラムの拡大を図る。工学部は25年度から1年次生全員にTOEICテスト受験を義務づけることを決定した。さらに、大学院3専攻（電気電子、機械、物質）では、英語資格試験をH25年度入試から要件に課すことが決められ、TOEICについては公開試験を対象とすることが決められた。